

あなたも「やま読」に参加しよう!

やまなし 読書活動 促進事業 とは

前県立図書館館長阿刀田高氏の「本を贈る習慣を山梨県に根付かせ、全国的にモデルケースとして発信したい」とした意向を踏まえ、平成26年度からスタートした事業です。

県、県立図書館、学校図書館、県内書店有志、県外出版社などで構成する、全国的にも珍しい官民一体となった実行委員会が主体となって、各種イベントを実施しています。

2019年度も、家族や友人、親しい人などに本を贈る習慣を広め、県民一人ひとりの読書への関心と、読書習慣を確立することにより、読書活動の推進を図ることを目的に次のようなイベントを実施していきます。

ブックフェア



県内全域で統一したテーマで、山梨に関する本を含むジャンルの異なる本を紹介します。

夏期「この夏、あなたにおすすめしたい1冊!」

(7月1日~8月31日)

秋期「本の中にやまなしを探せ!」

(10月1日~11月30日)

贈りたい本大賞



大切な人に贈りたい本の書名、著書名、贈りたい理由などを150字以内にまとめた推薦文を書いて応募してください。大賞作品は県立図書館ほかで展示されるとともに、受賞作品はリーフレットとして配布されます。(作品募集6月27日~9月13日:表彰式は11月24日 県立図書館)

やまなし読書活動シンポジウム

本を読むことの大切さ、住民が期待する書店、図書館の役割や連携について考えます。本年度は、うちどくポップ展表彰式後に、こども読書活動について取り上げる予定です。(2020年2月9日 県立図書館)

ワインと本と作者と

本県の名産品である「ワイン」を飲みながら、作者と語るイベントです。もちろん、ソフトドリンクでの参加もOK!です。(防災新館1階オープンカフェ「まるごとやまなし館」)

やま読ラリー「知の回遊」

県内の図書館や書店を回ってスタンプラリーを行い、2つのスタンプを集めた方に、甲州印伝によるオリジナル菓をプレゼント。さらに、4つのスタンプを集めた方は、図書カードプレゼントにも応募できます。(7月1日~8月31日) 参加者には、本を送る時のメッセージカードプレゼント!

ビブリオバトルやまなし

発表者(バトル)が、読んでおもしろかった本の魅力を1人5分間で紹介し、全員の発表後参加者全員(一般の聴衆者)で「どの本が一番読みたくなったか」を投票で選び、最も多く票を獲得した者が勝者となる書評合戦と言われる競技を、中学生・高校生・一般の部門別に実施。(12月15日午後 県立図書館)

●開会式では、デモンストレーションとして、書店員と司書によるビブリオバトルも行われます。

●各部門、チャンプ本獲得者は全国大会へ。

うちどくポップ展

教育委員会が推進する「しなやかな心の育成プロジェクト」の一環として、読書をきっかけに、家族のコミュニケーションを深める機会となるよう、ポップ展を開催します。(作品募集11月~12月:作品展示2月:表彰式2020年2月9日 県立図書館)

編集・発行 R1.6.14



やまなし読書活動促進事業実行委員会

「やま読」は親しい人などに本を贈る活動のお手伝いをしています。

事務局:山梨県教育委員会 社会教育課



この夏、あなたにおすすめしたい一冊!

辻村深月の「本を贈ること」



お誕生プレゼントの交換や、何かのお礼を買うときには書店に行くという辻村さん。大切なあの人のことを思い浮かべて、自分が面白いと思ったものや、その人の好きそうな小説、お料理のレシピ本などを買って贈ったり、教えてあげたりしているというお話をしてくださいました。

また、作家として、読者として、書店も図書館も、知らない世界をそれぞれの角度から見せてくれる場所だという観点から、どちらも大切にしたいと語られた辻村深月さん。

図書館へ▼地域における普遍的な存在感を保ちながら、新しい取り組みをされているところ



が多い。運命の1冊と出会える環境作りを期待したい。

本屋さんへ▼今まさに人気がある旬の本がそこにあることは書店の大きな魅力の一つ。

お子さんとお友達へのお誕生日プレゼントに本を買いに行った際に、お子さんが、愛読している「おしりたんでい」の新刊が並んでいることに感動して、辻村さんに「読んだことのない新しい本がある!」と熱く語りかけてきた。いろんな本の新刊を楽しみに書店に通っていたかつての御自身の姿を重ねられ、予定外に、思わずお子さんにも新刊を買ってあげてしまったというエピソードもお話しくれました。

2019年2月16日(土) 「辻村深月トークショー&シンポジウム~辻村深月氏とやまなしの読書について考える~」より



あなたの町の本屋さん、図書館の方から、この夏お薦めの一冊を紹介していただきました。ぜひ、この夏、手に取ってみてください。



「しゃばけ」

著作者:畠中 恵
出版社:新潮社

夏といえばこわい話。この世ならざるものたちの話で背筋を凍らせることが多いと思いますが、この夏はミステリーかつ心あたたまる話はいかがですか？
時は江戸時代。妖(あやかし)が見える主人公は、人殺しの現場を目撃。犯人探しをすることになった主人公の助けとなるべく、西へ東へ奔走する妖(あやかし)たちを、とくとご覧あれ!

2019子供の読書活動優秀実践校
文部科学大臣表彰受賞 北杜市立須玉中学校
司書 樽林なほ

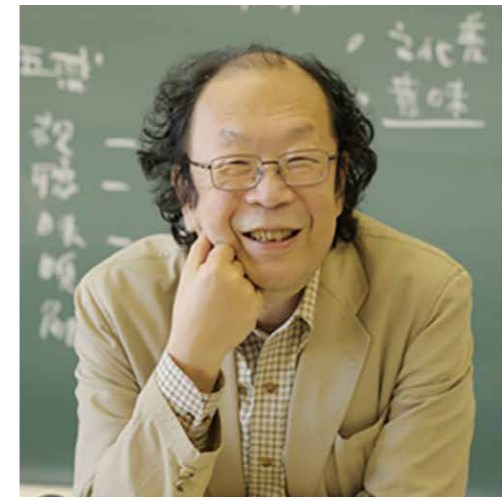


「上馬キリスト教会の世界一ゆるい聖書入門」

著作者:上馬キリスト教会
出版社:講談社

この夏、海外旅行へ行く方も多いのではないのでしょうか。ヨーロッパでは、サグラダ・ファミリアやモン・サン・ミッシェルなどのキリスト教会も観光地として人気ですが、そもそもキリスト教のことはご存知ですか。この本では、キリスト教についてとてもざっくり説明しています。これを読めば、より深く観光を楽しめるかも!?

山梨英和大学附属図書館
司書 青柳有紗



撮影:タカオカ邦彦

「アウトサイダー」

著作者:コリン・ウィルソン・中村保男(訳)
出版社:集英社文庫 ※絶版のため、現在は中公文庫で読むことができます。

自分がどうも人と違うように思えて、みなとじっくりこないなあという気持ちにとられることがあります。私は高校生になって、それまでは何も問題を感じなかったのが、急に周囲に違和感を覚え始めました。それがなんなのかわからないまま、題名にさそわれて手にしたのがこの本でした。その後のさまざまな本を読むときの大きな道筋を覚えてくれたように思います。

だいぶん以前に書かれた本で、時代遅れなのかもしれませんが、今でも十分に有効なのではないか、今こそこの本は生きてくるのではないかと思います。世間や流行に流されず、大きな声に騙されず、情報の海の中で溺れずに生きていきたいと思う人、自分でしっかりとちゃんと感じたい、考えたい、判断したい、表現したいと思う人にとって、とても強力なガイドブックになるはずですよ。

すこし背伸びして、大人の世界に、勇気を出して踏み込んでほしいです。知の冒険を楽しんでください。

山梨県立図書館長 金田一秀穂 氏

「やさいぺたぺたかくれんぼ」



著作者:松田奈那子
出版社:アリス館

夏は野菜が美味しい季節。でも、野菜って食べるだけじゃないんです!野菜の切断面に絵の具をつけた野菜スタンプ。絵本の中で、野菜スタンプたちがかくれんぼ!この野菜は何か?カラフルな野菜スタンプ探しを楽しんだ後は、実際にスタンプを作ってみるのも面白そう。夏にぴったりの楽しい絵本なので、お薦めします。

2019子供の読書活動優秀実践図書館
文部科学大臣表彰受賞 山梨市立図書館
司書 千葉あゆ美



「山彦乙女」

著作者:山本周五郎
出版社:新潮文庫

あなたの理想の生き方とは?舞台は江戸時代。半之助はかつて叔父が亡くなった「かんば沢」の謎に興味を持ち、甲州葎崎へ出奔する。武田家復興を願うみどう家の登世は、権力を追い求めていた。その一方で、妹花世は自由奔放に生きていた。半之助は果たしてどちらに心引かれていくのか、またその理想の生き方とは何か。

山梨県立文学館
学芸課教育普及担当
教育主事 柳川由美子

辻村深月 デビュー15周年記念 辻村本ビブリアバトル



「島はぼくらと」

著作者:辻村深月
出版社:講談社

母となった作者が「明るい涙」を意図して描いた、明るく開放的な故郷(瀬戸内海の小さな島)に暮らす4人の高校生の物語です。離島での子育てや医療問題、島民と移住してきた人との軋轢などの人間模様が、散りばめられた謎と共に展開していきます。ぜひこの夏体験してみてください。とても愛おしい気持ちになる一冊です。

辻村氏小学校時代の図書館司書
前笛吹市石和図書館館長 石倉清美 氏

VS



「家族シアター」

著作者:辻村深月
出版社:講談社

「家族じゃなければよかったの」と思ったことがあります。でも、心底「家族でよかった」と思ったこともあります。家族との距離感やありかたは人それぞれ違うけれども、大人になってから気づいた、家族の優しさやありがたみ。いいなあ。何度読み返しても、心があたたかくなります。この夏、一度立ち止まって振り返ってみませんか?

辻村氏高校時代のクラスメイト
現天真堂書店甲府国母店員 天谷要一 氏



「ぐるりと」

著作者:島崎 町
出版社:ロクリン社

ページ真ん中の線で仕切られ上半分は右から縦書き、下半分は左から横書きに文章が並び「なんじゃこりゃ?」と面食らう。読み進めると本を逆さにするよう指示が出て、二つの別世界を行き来しているらしいと理解する。まるで主人公と一緒に冒険をしているかの様。こんな本今まで見たことない!誰かに教えたい!読んでほしい!

あなたの町の本屋さんから
富士吉田市 榎卓示書店
渡辺小百合

「配色アイデア手帖 日本の美しい色と言葉」



著作者:桜井輝子
出版社:SBクリエイティブ

初めてページを開いた瞬間、思わず「わあ!すごい!」と声が出ました。日本独自の色見本と美しい言葉がたっぷり。色のことだけでなく、伝統行事や二十四節気・七十二候なども、あらためて知ることができます。創作のための実用的な本でありながら、いつでも誰でもどこからでも楽しめる、プレゼントにもおすすめの一冊です。

あなたの町の本屋さんから
甲府市 南星野書店
須藤紀子



「ひと」

著作者:小野寺 史宜
出版社:祥伝社

人と人の繋がりが生きることに繋がり、そして人は優しいと改めて感じさせてくれる本です。人と繋がるには、自分がちゃんと生きることが大切です。たとえ窮地に陥っても、手を差し伸べてくれる人が必ず現れます。ちゃんと動き、生活し、考え、恋をする。自分自身を見つめ直す機会を与えてくれる一冊です。

2018うちどくポップ展 学校賞受賞高校
山梨県立甲府昭和高校
司書 米山和恵



「へちまのへーたろー」

著作者:二宮由紀子/作
ストウピウ/絵
出版社:教育画劇

ある日、きゅうりと間違えられてしまったへちまのへーたろー。なぜ間違われてしまうのか考え、あらゆる努力を重ねますが、へちまとはわかってもらえませんが、それでもめげずに顔をあげ、前に進むとするへーたろーの強さに心惹かれます。くすっと笑えて、もりもりファイトがわいてくる、努力家のへちまのおはなしです。

2018うちどくポップ展 学校賞受賞小学校(100%参加)
市川三郷町立上野小学校
司書 塩島智恵

市川三郷町立上野小学校の読書活動



2018年度 図書集会の様子 (体育館)



図書委員おすすめの本の紹介 (図書室前)

大切な人に本を贈ることは、あなたの「思い」を伝えることです。本は、あなたと贈られた人との心を通い合わせ、絆を深めます。

愛する人へ、大切な家族へ、可愛い孫へ、かけがえのない友へ…。あなたならどんな本を贈りますか?

県立図書館では、「贈りたい本大賞」の募集を行っています。あなたが贈りたい本を一冊選んで、150字以内の推薦文を書いて応募してください。

このリーフレットに掲載されているコメントも150字以内で書かれています。ぜひ参考にしてみてください。

裏表紙も御覧ください。